

## 在学生の声



青木 邦仁 Kunito AOKI 2016年 博士後期課程3年在籍

現在、私は博士後期課程に在籍しています。博士課程に入る前は会社に勤めながら制作をしていました。今日、多様化する芸術の中で、自分の作品の弱点というものが浮き彫りになっていくのを感じていました。私は、そんな弱点を鍛え直すべく、大学で勉強することを選びました。大学では制作とともに自分の思考を言語化し、論文としてまとめる必要があります。そこには、思いつきだけで制作をするのではなく、しっかりとした考察を踏まえ、客観的に自己を理解する力が問われます。その力を養うために、担当教官と話し合い、時には専攻を超え、指導を受けます。また、学生同士が刺激を与えあい、常に更新されていく芸術の状況を議論しながらも、各々の技術や考え方をステップアップしていきます。さらに意欲的に学外での作品の発表を行い、その反応を素直に受け止め、先生たちの言葉と照らし合わせながら考えることによって、ステップアップの速度が増していくのを感じます。金沢美大では基礎力をしっかりと築くことによって、多様化する芸術の流行に流されることなく、自分自身が今日の芸術の中でしっかりとした立ち位置を作り出すことができると感じています。

## 卒業生の声



土田 俊介 Shunsuke TSUCHIDA 2004年 博士[芸術](金沢美術工芸大学)取得

一般的に彫刻家を志望する学生のために美大は、技術や理論を習得させるプログラムを用意している。確かにそれは重要である。しかし、それだけでは彫刻家にはなれない。彫刻家になるということは、彫刻家として生きるということであり、覚悟の問題だからだ。想像に難くないことだが、この問題を大学のプログラムにおいて乗り越えるのは非常に難しい。

金美には、彫刻家として生きること、その意味を、時に言葉を尽くし、時にその背中で示してくれる教員がいる。もしも、彫刻家として生きる覚悟を決める契機になるとしたら、そういった本物の彫刻家との出会いだけだ。20年前、覚悟を決めた一人の彫刻家として切に思う。

### 略歴

- 1973 北海道生まれ
- 2003-2009 金沢美術工芸大学 非常勤講師
- 2005-2006 五島記念文化財団 海外研修プログラムにてNYに滞在
- 2009- 明星大学造形芸術学部 准教授(2012年までは助教)
- 主な展覧会
- 2002 第41回北陸中日美術展 石川テレビ賞
- 2003 鎮魂曲 土田俊介個展・高雄市立美術館(台湾)、苗栗県立木彫博物館(台湾)
- 2004 遊具連関vol.1・金沢市民芸術村(金沢)
- 2005 第16回五島記念文化財団美術新人賞
- 2010 アートプログラム青梅2010 8th「循環の体」展・青梅織物協同組合(東京)
- 2011 考えても作れないんだけど、考えていないと出会えないモノ。  
・BankArt Studio NYK 1F / Miniギャラリー(横浜)、CAIO2(札幌)
- 2012 福島現代美術ビエンナーレ2012・福島空港(福島県)
- 2014 札幌国際芸術祭2014・500m美術館(札幌)
- その他、個展・グループ展多数

<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>



金沢美術工芸大学 KANAZAWA COLLEGE OF ART 920-8656 石川県金沢市小立野5-11-1 tel.076-262-3531 fax.076-262-6594

平成28年5月



金沢美術工芸大学  
KANAZAWA COLLEGE OF ART

美術工芸学部  
美術科

彫刻専攻  
SCULPTURE

美術科

彫刻専攻  
SCULPTURE

「自然」を見つめ「素材」と語り「私のかたち」を求めて

現代では「彫刻」は限りない表現世界としてその領域を広げ、意味の解釈も表現の方法も多岐にわたっています。

「彫刻専攻」では、自然観察を通じて形態の原理を学び追求すること、そして素材に身をもって触れ合うことでその可能性を最大限に引き出すことを彫刻表現の原点とし、発展させていきます。

自然を見つめ、素材と語り、時代を超えて行く「私のかたち」を一緒に探してみましよう。

〈教員〉

大学院専任教授 河口 龍夫  
総合造形

教授 中瀬 康志  
先端表現

教授 石田 陽介  
塑造・木彫

教授 土井 宏二  
塑造

准教授 浜田 周  
金属

准教授 芝山 昌也  
石彫

**1年次**

■彫刻(一) I・II

- 素描(人体)
- テラコッタ実習
- 先端表現実習
- 木彫実習
- 石彫実習
- 塑造実習(人体)
- 金属彫刻実習

■基礎科目

- デザイン演習
- 映像メディア演習
- 絵画演習
- 美術解剖学
- 日本美術史I・II
- 東洋美術史I・II
- 西洋美術史I

**2年次**

■彫刻(二) I・II

- 塑造実習(等身人体)
- 石彫実習
- 木彫実習
- 金属彫刻実習
- 塑造実習(クレーワーク)
- 先端表現実習
- 合成樹脂実習

■彫刻論 I

■基礎科目

- 工芸演習
- 絵画演習
- 美学
- 西洋美術史II
- 色彩論
- 近代美術史

1年次は基本的な彫刻素材を通じた実習により、造形表現の基礎と各種の技法を体得します。



素描実習



塑造実習



木彫実習



金属彫刻実習



石彫実習



先端表現実習

2年次は、より多様な素材との対話を図り、造形理論を深化させながら自己表現の可能性を探ります。



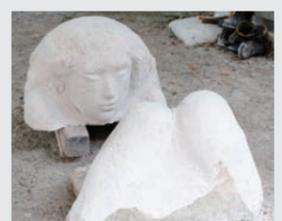
塑造実習



木彫実習



金属彫刻実習



石彫実習



先端表現実習



合成樹脂実習

**3・4年次**

3、4年次は素材や表現別に、またはそれらを横断しながら、個人のテーマ、内容を掘り下げ作品の完成を目指します。

■彫刻(三) I・II

- 彫刻論II
- 彫刻史特講

■基礎科目

- コンピュータグラフィックス

■彫刻(四) I・II

- 卒業制作

(選択制による表現・素材別制作演習)

塑造(人体)

塑造(クレーワーク)

木彫

石彫

金属彫刻

先端表現



波多野泉氏による彫刻論



棚田康司氏による彫刻論



光田由里氏による彫刻論



研修旅行(瀬戸内国際芸術祭・京都・奈良)



「KAMIKOANI」プロジェクト秋田2015



奥能登・上黒丸アートプロジェクト



オープンキャンパス体験授業